（５）桐蔭での学びについて

① 充実した教科学習による確かな学力形成

週あたり５０分授業３２コマの豊富な学習量をもとに、基礎・基本を確実に定着させ、学習内容を深化・発展させます。授業や単元の最初には、何を学ぶのかを意識し、授業や単元、定期考査、到達確認テスト等の終わりには、それまでの学習を振り返り、生徒自らが学んだことを再構築する等、生徒が自ら学ぶ習慣・力の確立へとつながる工夫を行います。このように、桐蔭中学校での学びの中で芽生えた疑問や深めたいことを追求していくなど「自らの学び」を大切にしていますので、宿題・課題やレポートなどは多くはありません。その分、自ら進んで学ぼうとする意欲をもち、宿題等が課されなくても、勉強する時間を確保し、自ら学ぶ学習習慣を確立させていくことが大切です。

また、ICT機器を活用し、従来の授業より多角的な学習活動を取り入れ、生徒が主体的に取り組み、学び合う授業を行います。具体的には、人前でスピーチやプレゼンをしたり、グループ学習での議論を通して考えを深めたりする活動が非常に多くなっています。さらに、昨年度導入された１人１台パソコンを用いて、オンラインで双方向の意見交換を行ったり、グーグルクラスルームを用いた情報交換を行ったりと有効に活用しています。

② 好奇心（curiosity）を触発する学校独自教科「桐蔭キュリオ」の設定

学校独自教科「桐蔭キュリオ」では、特色ある学習内容を操作的な活動や問題解決的な手法で教科の枠を超えて行うことにより、生活と結びつけて深く学習させたり、新たな発想や視点をもつ力を養うなど、知的好奇心や目的意識をもたせ、表現力、洞察力、論理的思考力、創造力等を育成します。『科学』『国際』『表現』の３領域で構成します。

○キュリオ『科学』……身の回りの自然科学的課題を、実験、観察、製作等の活動や、数学・理科の知識を生かして科学的に追究し、課題解決できる力を養う。また、研究成果を論文やプレゼンテーションで表現・発表する力を養う。

○キュリオ『国際』……国際社会を多角的にとらえ、時事問題などの国内外の諸事項について理解を深め、国際社会との関わりの中で考える力を養う。また、日本だけでなく、とりわけ英語圏の文化についての考察を深め、国際社会に積極的に関わっていこうとする態度を培う。

○キュリオ『表現』……適切な表現を使ってコミュニケーションする能力を育成するとともに、言葉に対する興味・関心を高め、言語感覚をみがき、さまざまな表現方法で相手に伝えることができる力を養う。

③ 自らの人生を切り拓くために必要な資質や能力を育てる「総合的な学習の時間（キャリア桐の葉）」

郷土学習「和歌山学」と在り方･生き方学習の「進路学習」の２つの分野で学びを深めます。「和歌山学」では、和歌山県の自然や文化、歴史、産業等について調べることを通して、考える、まとめる、自分を取り巻く人と合意を形成する、発表する、などの能力を育むとともに、和歌山について深く知り、郷土和歌山に誇りをもつ生徒を育成します。「進路学習」では、企業見学、大学訪問、職場体験学習などを体験的に学習することを通して、働くことや学ぶことの意義について